

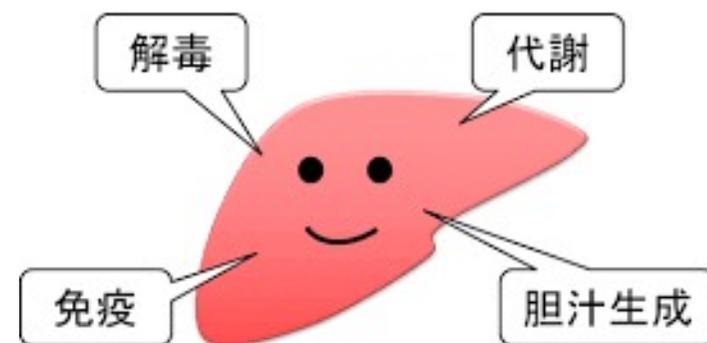
薬で肝臓が悪くなる!? 薬物性肝障害って?

加古川医療センター
薬剤部



薬物性肝障害とは？

- 肝臓は食物や薬物など様々な物質の代謝や解毒を行っている重要な臓器である。
- 薬物が原因で起こる肝臓の炎症を薬物性肝障害と呼ぶ。
- 全ての薬物で生じる可能性があり、病院で処方された薬だけでなく、**漢方薬や健康食品、サプリメント**などでも起こり得る。

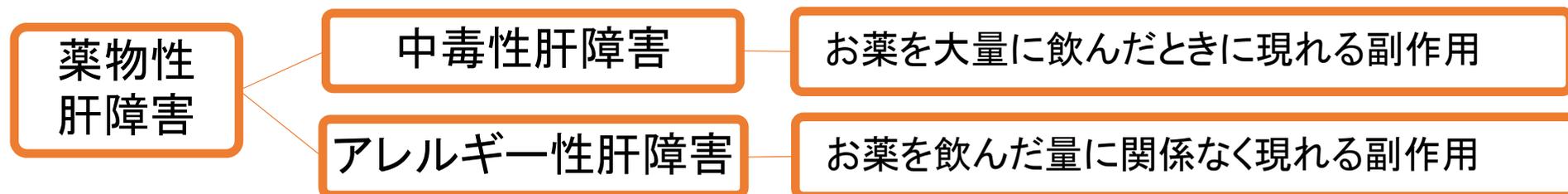


肝臓の主な働き

誰にでも起こり得る
お話なんです！

薬物性肝障害の分類

【発症機序による分類】

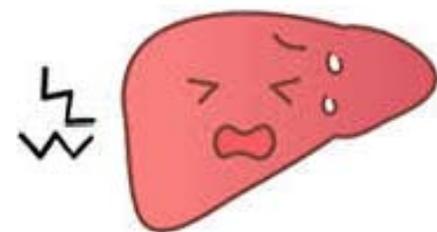


【肝障害の分類】

- 肝細胞障害型: 肝臓の細胞自体が障害され、代謝・分解能力が下がる。
- 胆汁うっ滞型: 胆汁の流れが妨げられる。黄疸、皮膚の痒み、ALP値の上昇が特徴的。
- 混合型: 上記の2つが同時に出現するもの。

薬物性肝障害の症状は？

- ほとんどの方は症状がなく、軽度の肝障害が多い。
- 肝機能障害が強かったり、長引いたりすると、「倦怠感」、「発熱」、「発疹」、「吐き気・嘔吐」、「かゆみ」などの症状が出ることもある。
- 放っておくと重症化し、「黄疸」や「脳症」、命に関わる「肝炎（劇症肝炎）」を起こすおそれもあるので、早めの対処が大切。



どんなお薬で起こりやすいの？



抗生物質

解熱・
鎮痛薬

精神・
神経科薬

消化器用薬

ホルモン薬

高脂血症薬

抗血小板薬

漢方薬

一般用
医薬品

健康食品

サプリメント

その他

どんなお薬でも起こり得ます！

薬の説明書

【警告】

本剤による重篤な肝障害が発現するおそれがあることに注意し、1日総量1500mgを越す高用量で長期投与する場合には、定期的に肝機能等を確認するなど慎重に投与すること。

肝障害を起こす可能性のある薬には、薬の説明書(添付文書)に注意喚起がなされていたり、副作用として報告されている。その点を注意して薬を使用することが必要。

※※2016年1月改訂(第12版)
※2016年2月改訂

解熱鎮痛剤

日本標準品名目録番号
97-011

カロナール錠 200
カロナール錠 300
カロナール錠 500

CALONAL® Tab. 200・300・500
(アセトアミノフェン錠)

	錠200	錠300	錠500
承認番号	21500AM200453000	21500AM200272000	22600AM01301000
承認日期	2004年7月	2003年7月	2014年11月
販売開始	1996年7月	2003年7月	2015年2月
効能追加	2011年1月		

規格分: 錠500 劇薬
貯法: 室温保存
使用期限: 3年(外箱に表示)

【警告】

(1) 本剤により重篤な肝障害が発現するおそれがあることに注意し、1日総量1500mgを越す高用量で長期投与する場合には、定期的に肝機能等を確認するなど慎重に投与すること。(※重要な基本的注意(3))の項参照)

(2) 本剤とアセトアミノフェンを含む他の薬剤(一般用医薬品を含む)との併用により、アセトアミノフェンの過量投与による重篤な肝障害が発現するおそれがあることから、これらの薬剤との併用を避けること。(※重要な基本的注意(7))及び「8.過量投与」の項参照)

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

(1) 消化性潰瘍のある患者【症状が悪化するおそれがある。】

(2) 重篤な血液の異常のある患者【重篤な転帰をとるおそれがある。】

(3) 重篤な肝障害のある患者【重篤な転帰をとるおそれがある。】

(4) 重篤な腎障害のある患者【重篤な転帰をとるおそれがある。】

(5) 重篤な心機能不全のある患者【循環系のバランスが崩れ、心不全が増悪するおそれがある。】

(6) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

(7) アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者【アスピリン喘息の発症にプロスタグランジン合成阻害作用が関与していると考えられる。】

【効能又は効果】

(1) 下記の疾患及び症状の鎮痛
頭痛、肩痛、症候性神経痛、腰痛症、筋肉痛、打撲痛、歯痛、月経痛、分娩後痛、がんによる疼痛、癌痛、歯科治療後の疼痛、変形性関節症

(2) 下記疾患の解熱・鎮痛
急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)

(3) 小児科領域における解熱・鎮痛

【用法及び用量】

効能又は効果(1)の場合
通常、成人にはアセトアミノフェンとして、1回300～

販売名	カロナール錠200	カロナール錠300	カロナール錠500
表型	白丸	白丸	白丸
裏型	白丸	白丸	白丸
形状	丸	丸	丸
直径	10.0mm	10.0mm	直径 17.5mm 高さ 7.5mm
厚さ	4.0mm	4.0mm	5.3mm
重量	200mg	375mg	500mg
薬剤コード	50112	50113	50115

健康食品・サプリメントによる薬物性肝障害

- 広く健康の保持増進に資する食品全般を指す。(厚生労働省HP)
- 普段の食事にプラスして摂取するため特定の成分を過剰摂取してしまう可能性もある。
- 国内での健康食品による薬物性肝障害の原因として報告されているもの → ウコン、アガリクス、プロポリス、クロレラ、ノニ、スクワレンなど
- 海外ではグルコサミン、ハーブ系健康食品で肝障害の報告あり。

(1) ウコン



- ショウガ科の多年草で、カレー粉などに含まれるターメリック
- 食品から摂取する場合と比べ、連日・過量に摂取できるため肝障害のリスクが高くなる。
- ウコンによる自己免疫性肝炎の発症も報告されている。
- ウコンには鉄が多く含まれているため、連日の摂取で鉄が蓄積することによりC型肝炎の悪化につながる可能性がある。

(2) アガリクス



- 日本名：ヒメマツタケ
- 抗腫瘍効果、免疫賦活作用があるとされ、がん患者に多く利用されてきた。
- 劇症肝炎など重篤な肝障害の報告もあり。

(3) プロポリス



- 蜜蝋とも呼ばれ、抗菌作用があるとされている。
- 180種以上の栄養成分が含まれるとされ、蜂の生息域によってはアレルギーを発症しやすい成分を含む。
- 接触性皮膚炎や肝障害、血液凝固系の異常を発症した例も報告されている。

(4) クロレラ



- 藻の1種で、栄養価の高さから健康食品として多く流通している。
- 過去には製造過程で出る成分が光線過敏症を引き起こし問題となった。
- 急性肝不全となった症例も報告されている。

(5) その他のハーブ型健康食品



- ノニ

日本ではジュースとして飲まれることが多い。

カリウムを多く含むため腎機能の低下した方では高カリウム血症に注意。海外では肝障害例も報告されている。

- グルコサミン

海外ではグルコサミンとコンドロイチンを摂取し自己免疫性肝炎を発症した例もある。

- その他、ダイエット用健康食品 など

漢方薬による薬物性肝障害



- 漢方薬による副作用も無視できないものとされている。
- 肝障害の程度は、ごく軽症のものからまれに劇症肝炎を来すこともある。
- 肝障害を発症するまでの期間は、飲み始めて1週間以内から、4カ月以上経過してから確認されることもある。
- 特に肝障害を起こす生薬としては「**オウゴン**」が知られており、定期的に肝機能をチェックする必要がある。
- その他には「柴胡・半夏・人参・沢瀉(オモダカ)・生姜・甘草」など

- 重篤な薬物性肝障害を来した報告例



小柴胡湯、柴苓湯、大柴胡湯、半夏瀉心湯、柴胡桂枝湯、温清飲、
補中益気湯、乙字湯、葛根湯、防風通聖散、女神散、黄連解毒湯など

※全ての漢方薬が危険なわけではありませんが、最近ではドラッグストアで漢方薬も購入できますので、注意は必要です。



一般用医薬品（OTC薬）による薬物性肝障害

- 報告頻度の高いもの
→ 総合感冒薬・解熱鎮痛薬・漢方薬・胃腸薬・ビタミン剤など
- 多くは薬物中止により改善するが、重篤な合併症を起こすこともあるため注意が必要。
- 総合感冒薬や解熱鎮痛薬に含まれている
アセトアミノフェンは多量に摂取すると肝障害を引き起こす。
アルコールとの併用で、障害はさらに出やすくなる。



薬物性肝障害の治療



薬物性肝障害の治療

- 原因の薬剤を中止する。
- 安静にして脂肪分の少ない食事を摂る。
- 肝機能を改善させるためのお薬を飲む。
- 薬・サプリメント・健康食品を常用する際は、定期的な肝機能検査を行うことが必要な場合がある。

ウルソデオキシコール酸

グリチルリチン製剤

副腎皮質ステロイド薬 など

ウルソデオキシコール酸



- もともと肝臓から作られる「胆汁(胆汁酸)」の一成分
→ウルソデオキシコール酸(UDCA)

第一選択薬

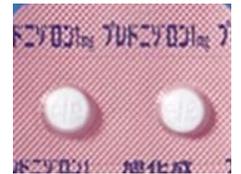
- 商品名:ウルソ®(飲み薬)など
- 作用:胆汁分泌を促進、胆石を溶かす、肝機能の改善、
コレステロール吸収抑制
- 副作用:軟便、下痢、吐き気、胸やけ など

グリチルリチン製剤



- 漢方生薬の甘草(かんぞう): マメ科から抽出
- 商品名: ヒシファージェン®(注射)・グリチロン®(飲み薬)など
- 作用: 抗炎症、免疫調節、肝細胞の保護
- 副作用: 食欲低下、胃の不快感、アルドステロン様作用
(低カリウム血症や高血圧)

副腎皮質ホルモン剤(ステロイド剤)



- 身体の副腎皮質という組織から分泌されているホルモンを薬として化学的に合成したもの
- 商品名 : プレドニン®・プレドニゾロン など
- 作用 : 抗炎症作用、抗アレルギー作用、免疫抑制作用、
ホルモン作用(糖・蛋白・脂質の代謝など生命維持に関与)
- 副作用 : 高血糖、高血圧、高脂血症、消化性潰瘍、骨粗鬆症、
筋力低下、不眠・精神変調、免疫機能の低下 など

その他の治療薬



薬品名	分類	効果
インチンコウトウ 茵陳蒿湯	漢方薬	胆汁の分泌を抑制する。
ベザフィブラート	高脂血症治療薬	胆汁中への脂質の分泌を促進、肝機能改善作用、抗炎症作用をもつ。
コレステラミン	高コレステロール 治療薬	胆汁酸・コレステロールを吸着し、排泄を促進する。痒みを和らげる。
タウリン	肝・循環機能改善薬	胆汁酸の排泄を促進する。
フェノバルビタール	抗てんかん薬	胆汁流量を増やす、肝血流の増加、グルクロン酸抱合を促進する。

早期発見と早期対応のポイント

- 薬物性肝障害は誰にでも発症する可能性があります。
- 薬や健康食品を使用していて、「倦怠感」、「発熱」、「黄疸」、「発疹」、「吐き気・嘔吐」、「かゆみ」といった症状が急に出現したり、続く場合は、放置せずに医師・薬剤師に連絡してください。
- 受診する際には、飲んだお薬の種類・いつ飲んだのか・症状とその程度などをお知らせください。

- 早期の対策としては、その薬を飲まないことですが、勝手に中止すると危険なお薬もありますので、医師に相談してください。
- 副作用の早期発見のためには、飲んだ薬がどのような効果・副作用があるのかを理解しておくことが大切です。
- 他の病院から出されたお薬や健康食品・サプリメントを摂取している場合は必ずお知らせください。
- 飲み合わせの確認も大切ですので、お薬手帳を活用しましょう。



気になることがあれば、何でもご相談ください



加古川医療センター 薬剤部